

Vol.242



病院ホームページは

<https://www.mhi.com/jp/company/hospital/kobe/>

かけはし

理念

 すべては患者様と
地域社会のために

発行責任者 病院長 中村 吉貴

内痔核の治療について

 院長 兼 外科部長
中村 吉貴

痔は、日本人の3人に1人はかかえている、虫歯について多い身近な病気です。排便時の出血、痛み、肛門部の違和感、腫瘍感などを症状としますが、日本人の場合、かなり長い期間悩んだ末、病院を受診する方が多いようです。痔は医学的に痔核、裂肛、痔瘻の3つに分類されています。今回は痔核についてのお話です。

痔核 (いぼ痔) とは？

肛門周囲の血管や支持組織で血流が滞り肛門内に膨れ上がってきたものです。痔では痔核が最も頻度が高く、男女とも約6割が痔核の患者さんです。

肛門のふちから約1.5cm奥に歯状線とよばれる肛門粘膜と肛門上皮の境界線がありますが、それより上方にできるものを内痔核、下方にできるものを外痔核といいます。

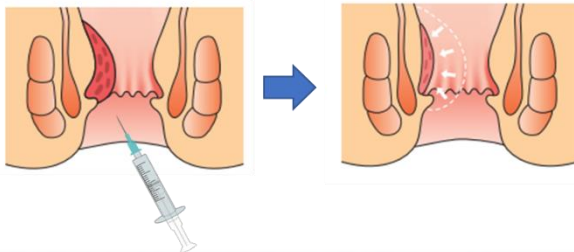
外痔核のように皮膚に近いものほど痛みを伴うことが多くなります。

また、内痔核自体は奥にあるので痛みませんが、排便時にいきむと

出血したり、肛門の外側へ飛び出して脱肛と呼ばれる状態になると痛みが出てくる場合があります。出血の程度はさまざまで、紙に付着する程度のものから、ぼたぼたと便器が真っ赤になるものまであり、出血を繰り返して貧血をおこすこともしばしばあります。脱肛も、排便後に自然に肛門内へ戻るものから、指で押せば戻るもの、押しでも戻らないもの、さらには出っ放しの痔核が肛門にしめつけられて腫れ上がり激しく痛むものまでさまざまです。痔核に対する根治療法は手術ですが、最近では硬化療法（ジオン注）という根治手術に比べ侵襲の少ない方法がまず選ばれるようになってきました。

内痔核を切らずに治すジオン注

肛門の上方にできたいぼ痔（内痔核）は、痛みがなく、脱肛や出血が主な症状ですが、この内痔核に注射をすることで痔の内部に炎症を起こし、痔を縮小させることで脱肛や出血などの症状を抑える治療法がジオン注です。治療の時間は30分程度で、当院では一泊の入院で治療を行っています。脱肛や出血などの痔の症状でお困りの方はぜひ一度、当院外科外来へご相談ください。

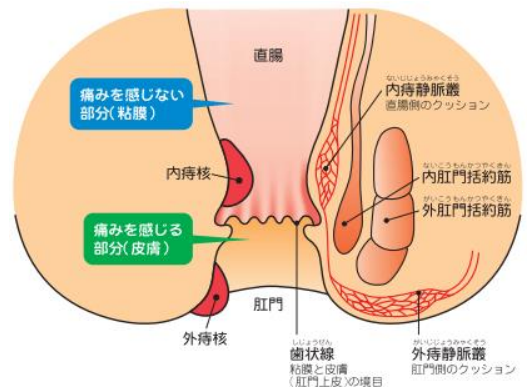


【お問い合わせ先】

外科受付

外線 078-672-2628

内線 8-63-22628



☆認定看護師のちょっとためになるお話シリーズ 第1弾☆

当院の認定看護師(※)が、リレー形式で皆様に少しでもお役に立てるようなお話をお伝えして参ります。第1弾は、**感染管理認定看護師による感染症についてのお話**です。

(※) 日本看護協会が定める特定の専門分野において、実践経験を有し規定の教育を修めた上で審査に合格し、熟練した看護技術と知識を有していると認められた看護師のこと。5年毎に資格の更新が必要。

感染管理認定看護師は、感染症の予防・対策の専門家で患者様や病院職員等を感染から守るために専門的な知識・技術を用いて、効果的な感染管理を計画・実践・評価し、提供することで医療の質の向上を図る重要な役割を担っています。

「麻しん(はしか)」について

感染管理認定看護師
岡本 みちる

○ 麻しん

麻しんウイルスによっておこる急性の全身性感染症です。感染力はウイルスの中で最も強く、発症者と同室にいただけで(空気)感染することがあります。感染力はインフルエンザの10倍といわれています。免疫がない人が感染するとほぼ100%発症し、一度発症すると一生涯免疫が持続します。

○ 感染経路(どうやってうつる?)

感染者に直接さわったり、その人のはいた息や会話、咳などに含まれる唾液等からうつります。感染期間(人にうつす期間)は、症状が出現する1日前(発疹出現の3~5日前)から発疹消失後4日くらいまで(または解熱後3日くらいまで)とされています。

○ 症状と経過

感染して10~12日の症状がない期間(潜伏期)の後、発熱、咳、鼻水が3~4日続き、口の中に小さな(約1mm)白い発疹(コプリック斑)ができます。

熱は1度ほど下がりますが、再び上昇し、その後体中に赤い発疹ができます。おおよそ7~10日で回復します。

○ 治療

特別な治療はなく症状を軽くするための対症療法が行われます。肺炎、中耳炎を合併しやすく、患者1,000人に1人の割合で脳炎が発症すると言われています。死亡する割合も、先進国であっても1,000人に1人と言われています。

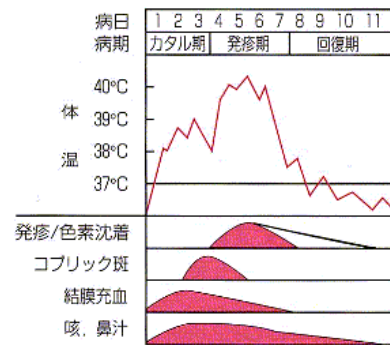
○ 予防

ワクチン接種(生ワクチン)が有効です。予防効果を確実にするためには、2回の接種が必要です。

1回のワクチン接種でも95%の効果がありますが、2回接種すると99%の効果があります。

2007年~2008年に国内での麻しんが、大流行しましたが、2009年以降患者数は激減しました。

2015年に世界保健機関西太平洋地域事務局により、日本が国内由来の麻しんウイルスが存在しない「麻疹排除国」に認定され、排除後は海外からの持ち込みによる感染事例のみを認める状況となっています。



日本医師会 編「感染症の診断・治療ガイドライン」より

★麻しんは、ワクチン接種が予防に有効です。

予防接種を受けたことがなく、麻しんにかかったことがない場合には、ワクチン接種を受けることをお勧めします。当院では内科外来にてワクチン接種を完全予約制にて行っております。

予約の詳細については、078-672-2619(内科受付)へお問合せ下さい。

★発疹や発熱などの症状がある場合

医療機関を受診される前に、まず電話で問い合わせをして頂き、医療機関スタッフの指示に従って来院してください。

メンタルヘルス ワンポイントアドバイス

公認心理師・臨床心理士
矢野 知子

心の不調に注意しましょう

9月になりました。近年は季節を問わず一年を通してメンタル不調を訴える方が多いように思います。コロナ禍が明けた3年振りの変化、これまで経験したことのない激しい気象の変化、変化の中で日常を送る不安等々、日々のなかで私たちの心身にかかるストレスは様々であり、メンタル面のケアはこれまで以上に重要だと感じる今日この頃です。そんな今こそ心の健康管理の基本に立ち返り、自分で意識して行える「セルフケア」と、周囲とコミュニケーションを取る労を惜しまず孤立を防ぐことは、私たちの心の健康を保つことにつながると考えます。以下にコミュニケーションのちょっとしたポイントとセルフケアについて掲載しますのでご自身の心の健康管理に是非お役立てください。

●あなたのコミュニケーション力は？～当てはまる項目を増やしましょう！～

- 自分からあいさつをしている
- 自分がどのような態度で人の話を聞いているか、常に意識している
- 会話をするときには、相手に体や視線を向けている
- 口数の少ない人にも関心を寄せ、言葉が出るのを待つ
- 相手が話し終わるまで口を挟まず、最後まで聞いてから対応している
- 相手のいいところに気づいたら、その場でほめている
- 相手の苦勞には、感謝やねぎらいの言葉をかけている



●メンタル不調であるうつ状態の場合には、以下のような不調が現れることを知り、セルフチェックにお役立てください！

- ①憂鬱な気分が続いている
- ②以前なら楽しめていたこと（テレビ、趣味、スポーツ等）に興味を感じなくなった
- ③夜よく眠れない
- ④疲れやすく、気力がわかない
- ⑤集中力がない。ちょっとしたことも決断できない



これらの不調が概ね半数以上該当する場合は、うつ状態等の可能性がありますので、ひとりで抱えこまず専門機関へ相談することをお勧めします。

★★メンタル不調を予防するための大切なポイント★★

- * 自分のストレスに気付こう
- * 今、目の前にあることに集中しよう
- * 気持ちの切り替えを意識しよう
- * 規則正しい生活を心がけよう
- * 軽い運動やリラックス方法を身につけよう
- * 没頭できる趣味や楽しみを持とう
- * 変だな？いつもとちがうな？と思ったら早めに相談をしよう！



2023年度 第3回

「院内講演会開催のご案内」

院長（外科部長）中村医師による院内講演会の開催を、次のおり予定しております。どなたでもご予約不要でご参加頂けますので、ぜひお気軽にご参加ください。

テーマ 「内痔核の治療について」
日 時 9月26日(火) 午後3時00分～(約30分)
場 所 本館1階 外科・整形外科待合



院長 兼 外科部長
中村 吉貴